

2017年
5月号

カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」

No. 0057

小教区今年度のテーマ・・・「届けよう、神のいつくしみを共に」

道・真理・命であるイエス様



主任司祭 遠山満

ビリー・グラハムというアメリカのプロテスタントの有名な説教者が、ある街で一人の少年に教会への道を尋ね、その後、「君も教会にいらっしゃい。天国に行く道を教えてあげるから」と誘ったところ、その少年は、「教会に行く道を知らないあなたが、天国に行く道を知っているはずがない」と言って断られた、その話を聞いた時、私も、これと似たような体験をしたことを思い出しました。私の場合、ある場所で信仰のことを分ち合っていた時のことです。私が、「私も求道者の一人です。私も、まだ求め続けているのです」と語ったところ、相手の方が、「私は、求道者の人から教えを受けているのですか」と尋ねられました。私達は、皆、道半ばの者です。その私達が宣教するという時、どのような思いで宣教すればよいのか、考え込んでしまいました。

それでは、私達がビリー・グラハムの立場にいたとしたら、果たして何と言えば良かったのでしょうか。私が、彼の立場にいるとして、道を教えてくれた少年に言えることは次のことです。「教会にいらっしゃい。天国への道を教える人を紹介するよ」。天国への道を教える人、それは言うまでもなくイエス様です。教会に来た人が、イエス様に会うように努める事、それが私達に任されていることです。もし、その人がイエス様に会ったならば、その人の後の人生は、イエス様が導いてくださいます。

イエス様は、言われました。「私は道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14章6節)と。また、次のようにも言われています。「あなた方は『先生』と呼ばれてはならない。あなた方の師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなた方の父は天の父お一人だけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなた方の教師はキリスト一人だけである」(マタイ 23章8~10節)。

教会に集まる、あるいは教会を訪れる全ての人が、イエス様に会い、イエス様に導かれて、天国に入ることができますよう、共に祈りを捧げて参りましょう。また、言葉と行いを通して、導き手であるイエス様を他の人たちに紹介していくことが出来ますように、祈りましょう。

自己紹介



笹丘教会の皆様にはあたたかい心で受け入れて頂いてありがとうございます。

今年笹丘教会で司牧実習をさせて頂いているさいたま教区の神学生ホルヘ・マヌエル・マシアス・ラミレスと申します。笹丘に来た3番目の神学生になります。メキシコ合衆国のハリスコ州のグアダラハラ出身です。出身教会は聖十字架教会です。

メキシコ合衆国、通称メキシコは、北アメリカ南部に位置する連邦共和制国家です。北にアメリカ合衆国と、南東にグアテマラ、ベリーズと国境を接し、西は太平洋、東はメキシコ湾とカリブ海に面します。首都はメキシコシティ。公用語はスペイン語。総人口は約1億3千万人。82%はカトリック信者です。北米大陸の南部に位置し、約197万平方kmの面積（日本の約5倍）を持ちます。

グアダラハラはメキシコの二番目の大都市ですが田舎の伝統的な雰囲気もあり、日本で言えば京都だと思います。このような町で生まれ育ちました。

8人兄弟の中で私だけ司祭の道を選びました。8歳の時に自分の主任司祭のような神父になりたいと思っていました。一人で五つの教会を持って、ボロボロのクライスラーの茶色の車に乗ってミサのために五つの教会を回っていました。

私は中学校を終わってから神学院に入りました。神学生として長いキャリアの間、今まで楽しいことたくさんありました。

趣味は祈りと勉強そして金魚とエビも飼っています。日本へ来てから盆栽に興味を持つことになりました。今は松、紅葉、バラ、杉の盆栽を育てています。時々抹茶を点てます。

小神学院はグアダラハラで勉強しました、そして大神学院で哲学を四年間と神学科一年までメキシコ市で養成を受けました。2009年12月5日7時に成田空港に着きましたが芸者、忍者、侍がいなかったからがっかりしました。2010年1月に日本語の勉強を始めました。

さいたま教区の信者の家でまる一年間ホームステイをしました。日本語学校で2年間日本語を勉強しました。そして群馬県の前橋教会に半年と伊勢崎教会にも半年住んでいました、この時に信者さんとシスター二人に日本語を教えて頂きました。まだ日本語が未熟なので遠慮なくいつでも日本語を教えて下さい。宜しくお願い致します。

お祝い行事報告

2017.4月

受洗

23日(日) 幼児洗礼 レオ崔 強(チェ・カン)君
おめでとうございます!



初聖体

30日(日) 小学校2年生の4人の子どもたち
おめでとうございます!!



初聖体の味

(左)ちえ・しんび

コーンの味がちょっとした。うれしい。

(左2番目) ちえ・うんぴ

ごせいたいがかたかったです。

(右2番目) おけだしょうた

せんべいのあじのないやつみたい。

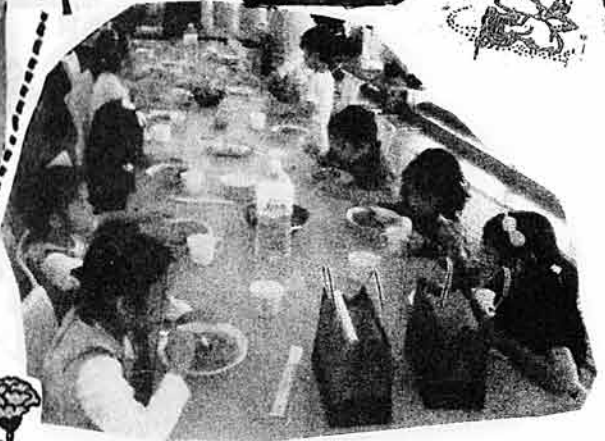
あじがなかった。

(右) なかはらあんり

こむぎこのあじ。



お祝い会



カレー・チャプチェ・韓国のにり

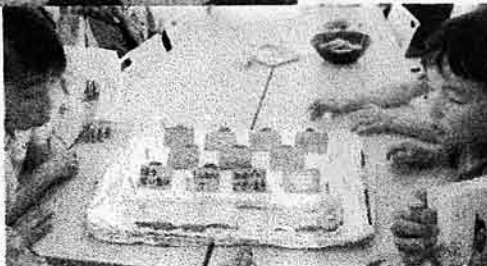
4月16日に受洗した兄弟姉妹と一緒に記念撮影



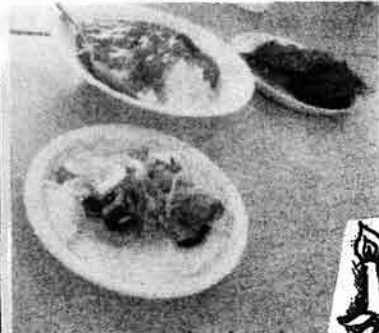
教会学校の先生方に
花束贈呈



手作りケーキ



ちうそくをふき済します!



おは大人気!!

ちがれさんの手作りケーキ



バザー大盛況！！ 2017.5.14 (日)



お天気は快晴！前々から手がけた手づくり品、食堂メニュー、販売メニュー、会場設定・・・メンバー一体となって完成させました。お疲れ様でした！！神に感謝！！



ようこそ看板は可愛い横断幕



子どもたちも楽しく手伝いました



開会直後、手作り品コーナーは超満員



外のゲームコーナー今年も工夫がいっぱい



青空いっぱい気持ちがいい！外での食事！



(上) 1等賞 大当たり！
室内干しに欠かせない除湿機

(左) 笹丘ファミリア合唱団
小さいお友だち、上手です！



おア-メン ハレルヤ





✿✿ 信仰のルーツ ✿✿



私の祖先 私を創った人々のルーツを語る

——その4——

前回までのあらすじ

ある信者さんの自分を創った人々のルーツを語ってもらっています。

明治22年西彼杵郡外海黒崎村で生まれた父方の祖父善之助。枢機卿を輩出したほどのカトリック信者一家の娘との結婚式目前で家出しました。理由は長崎の三菱造船所の仕事に憧れ、そこで働くためでした。大胆な行動をとりましたが、カトリック信者としての信仰は厚く、孫達がカトリック幼稚園からもらってきた千歳飴に異宗教の祭りごとをするなんてと激怒したものでした。筆者はその時から祖父善之助に距離を取るようになりました。

祖父善之助は私が小学校6年のときに亡くなった。その際もすったもんだあったが、それはまたの機会に。

祖父の死から十年経った頃、孫の一人が司祭になった。しかも孫の中でも一番のやんちゃ坊主で、幼い頃私は毎日のようにその従兄弟から意地悪され泣かされていた。彼が小神学校に入ると言い出したとき、家族も親戚一同もこぞって反対した。どうせ数日で帰って来るから、恥ずかしいから止めろと。それが一年経ち二年経ち・・・気がつけば司祭に叙階されていた。まことにまことに、神の計らいは限りなし。

長崎地区では、新司祭はまず大きな小教区の助任司祭として数年過ごし、その後離島や小さな小教区に赴任するケースが多い。従兄弟の新司祭(仮に〇とする)も叙階後はしばらく長崎市内の小教区に赴任したが市内には親戚や知り合いが多く、窮屈な思いをしていたようだ。なのでその後、田平地方の教会へ異動が決まったときは、やれやれやっとのびのび過ごせるぞと、首をコキコキ鳴らしてほっとした。意気揚々と新しい教会にやってきた〇神父、毎回ミサの後は教会の入り口に立ち、顔いっぱいにお愛想笑顔を浮かべ信者達に声をかけ、受け入れてもらおうとがんばった。ところがしばらく経った頃、彼はあることに気がつく。彼の必死のお愛想笑顔と声かけにもかかわらず、お年寄りの中の何人かがあからさまに彼の挨拶を無視し、しかもミサの間ずっと、彼の一挙手一投足を睨み付けるような陰い表情で見ているのだ。初めの頃は極力気にはかけないようにしていたが、2~3ヶ月経った頃、さすがに少々頭にきた〇神父は、そのことを信徒会長に愚痴った。人の良い信徒会長は困ったように苦笑して言った。「神父様は善之助さんの孫げなて？」

突然出てきた祖父の名と話の繋がりがわからず、〇神父は混乱しながら亀のように首を伸ばして「へ？」と言った。(来月号につづく)



編集後記

先日、友人に誘われて「日本と原発 4年後」という自主上映の映画を観に行った。全国の原発差し止め訴訟の原告団の先頭に立っている河合弘之弁護士が、広く原発の実態を知ってもらいたいと自分で監督をされ作った映画で、2時間20分の大作だった。

福島のその後、廃炉はどう進んでいるのか、汚染地下水はどうなっているのか？あまりに報道が少ないと思っていたところだったので、いろんなことを知ることができて、観に行ってもよかったと思った。

地震と津波だけでなく、サイバーテロ、北朝鮮のミサイル、など実際に危険を身近に感じるこの頃、テロやミサイルが原発に向けられたら、あっという間に日本は滅びます、と上映後に河合弁護士が話され、「原発は自国に向けられた核弾頭」と言われた言葉が心に残っている。

使用済み核燃料の始末もできないのに、そんな手に負えない、命を脅かすものを持ち続ける必要があるのだろうか・・・？次世代、次々世代に安全と平和を――と願わずにはいられない。

(F. K)